

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		<input checked="" type="checkbox"/>	
科目名	在宅看護概論			担当講師	富樫 幸江 栗原 久美子		
分野	統合	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2 年次	学 期	前期
概 要	在宅看護論は、あらゆる健康レベルの人々への支援、環境との関連で健康を考える包括的視点で、地域で療養する人々とその家族の「生活の場」を整える看護が求められている。本科目では、在宅看護の変遷やその社会背景をはじめ、在宅看護の目的・基本的な理念や関連する概念を学ぶ。在宅看護の対象者の特性と支援のあり方、ならびにその支援の基盤となる訪問看護制度を学ぶ。さらに、在宅療養を支える地域包括ケアシステムの基本とケアマネジメント、関係機関・職種との連携の必要性、社会資源とその活用方法を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の目的と基本理念、関連する概念について理解できる。 2. 在宅看護の対象者の特性とその支援の基本を理解できる。 3. 在宅療養を支える制度と社会資源について理解する。 4. 在宅療養を支える地域包括ケアシステムとケアマネジメント、関係機関・職種との連携について理解する。 5. 現在の訪問看護制度の基本を理解できる。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						学習方法
1	在宅看護の概念 (1) 在宅看護とは／在宅看護の背景						講 義
2	在宅看護の概念 (2) 在宅看護の基盤／在宅看護の役割・機能						講 義
3	在宅看護の概念 (3) 在宅看護の基本理念／在宅看護の倫理						講 義
4	在宅療養者と家族の支援 (1) 在宅看護の対象者／在宅療養の成立条件						講 義
5	在宅療養者と家族の支援 (2) 在宅療養者の家族のとらえ方／家族への看護						講 義
6	地域療養を支える制度 (1) 社会資源の活用／医療保険制度／後期高齢者医療制度／介護保険制度／生活保護制度						講義・GW
7	地域療養を支える制度 (2) 障害者に関する法律／難病法／子どもの在宅療養を支える制度・社会資源／権利擁護・社会資源／高齢者施策						講義・GW
8	在宅療養を支える訪問看護(1) 訪問看護の特徴／訪問看護ステーション						講 義
9	在宅療養を支える訪問看護(2) 訪問看護サービスの展開／訪問看護の記録						講 義
10	地域包括ケアシステムにおける在宅看護 (1) 地域包括ケアシステム／地域包括支援センター						講 義
11	地域包括ケアシステムにおける在宅看護(2) 療養の場の移行に伴う看護／多職種・多機関連携						講 義
12	地域包括ケアシステムにおける在宅看護(3) ケースマネジメント／ケアマネジメント						講 義
13	在宅看護における安全と健康危機管理 (1) 在宅看護の危機管理／日常生活における安全管理						講 義
14	在宅看護における安全と健康危機管理 (2) 災害時の健康危機管理／医療機関・福祉機関・行政との連携／在宅看護の動向・発展						講 義
15	まとめ・終講試験/解答・解説						講 義
評価方法	客観試験						
教科書	ナーシング・グラフィカ「地域療養を支えるケア 在宅看護論①」 メディカ出版						
参考書	「国民衛生の動向」 厚生統計協会 系統看護学講座 「社会保障・社会福祉」 医学書院 系統看護学講座 「公衆衛生」 医学書院 ナーシング・グラフィカ 「高齢者の健康と障害 老年看護学①」 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 「高齢者看護の実践 老年看護学②」 メディカ出版 「在宅看護論」 南江堂						
備 考							

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>		
科目名	在宅療養者の健康状態に応じた看護			担当講師	小坂 宣靖		
分野	統合	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	15 時間	学 年	2 年次	学 期	前期
概 要	<p>在宅療養者は、何らかの健康障害をもちながら自宅で療養している。自身の生活スタイルを損なわないようにして、療養者がより良い方向で自立していくことを支援するために、在宅におけるさまざまな健康状態に応じて生活を支援する方法を学ぶ必要がある。本科目では、在宅で療養するさまざまな状況や対象に応じた看護を学ぶ。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅における療養者とその家族の生活上の課題を理解する。 2. 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を理解する。 3. 在宅療養者のさまざまな状態に応じた看護とその家族（介護者）の看護を理解する。 4. 療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現するためのケアマネジメントについて理解する。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						学習方法
1	長期臥床状態にある高齢者とその家族の看護						講 義
2	在宅の認知症高齢者とその家族の看護						講 義
3	障害をもちながら生活する療養者とその家族の看護						講 義
4	在宅で療養する精神障害者とその家族の看護						講 義
5	地域で療養する子どもとその家族の看護						講 義
6	難病療養者とその家族の看護						講 義
7	ターミナル期の療養者とその家族の看護						講 義
8	まとめ・終講試験/解答・解説						講 義
評価方法	客観試験						
教科書	ナーシング・グラフィカ「地域療養を支えるケア 在宅看護論①」 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ「在宅療養を支えるケア 在宅看護論②」 メディカ出版						
参考書	「看護実践のための根拠が分かる在宅看護技術」メヂカルフレンド社 「在宅看護論」 メヂカルフレンド社 「在宅看護論」 南江堂						
備 考							

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>
科目名	在宅看護技術			担当講師	高柳 真理子
分野	統合	授業方法	演習	実務経験	看護師としての実務経験
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2 年次 学 期 後期
概 要	在宅看護論は、あらゆる健康レベルの人々への支援、環境との関連で健康を考える包括的視点で、地域で療養する人々とその家族の「生活の場」を整える看護が求められている。本科目では、在宅における日常生活援助ならびに医療的援助における基本的なアセスメントや援助技術の具体的方法と在宅看護における安全と健康危機管理について学習する。そして、さまざまな療養者とその家族、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際を学び、既存の看護の知識を応用して在宅看護の実践に結び付ける。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を理解できる。 2. 在宅療養者の特性に応じた日常生活援助および医療的援助の基本的なアセスメントができる。 3. 在宅療養者の状況に応じた在宅看護の特異的な援助技術を具体的に実施できる。 				

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学 習 方 法
1	在宅看護に必要な基本技術	講 義
2	在宅におけるフィジカルアセスメント	講 義
3	援助の実際①（ロールプレイを含む事例展開）	講義・演習
4	援助の実際②（ロールプレイを含む初回訪問）	講義・演習
5	在宅における生活援助技術①-食事・排泄・清潔	演習・GW
6	在宅における生活援助技術②-呼吸・移動	演習・GW
7	在宅における医療的援助技術①-薬物療法・服薬管理／化学療法、放射線療法	演習・GW
8	在宅における医療的援助技術②-在宅酸素療法／在宅人工呼吸療法／連続携行式腹膜透析	演習・GW
9	在宅における医療的援助技術③-在宅経管栄養法／在宅中心静脈栄養法／インスリン自己注射	演習・GW
10	在宅における医療的援助技術④-膀胱留置カテーテル／ストーマ／疼痛管理／褥瘡予防ケア	演習・GW
11	褥瘡予防ケア・移動援助の実際	演 習
12	経管栄養の管理（PEG）の実際	演 習
13	膀胱留置カテーテルの管理の実際	演 習
14	呼吸管理（気管切開部の管理・気管内吸引・人工呼吸療法）の援助の実際	演 習
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	ナーシング・グラフィカ「地域療養を支えるケア 在宅看護論①」 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ「在宅療養を支える技術 在宅看護論②」 メディカ出版
参考書	「写真でわかる訪問看護アドバンス」インターメディカ 「根拠がわかる 在宅看護技術」 岡崎 美智子他編 メヂカルフレンド社
備 考	

2021年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>
科目名	在宅の看護過程			担当講師	澁川 悦子
分野	統合	授業方法	講義・演習	実務経験	看護師としての実務経験
単位数	1 単位	時 間	15 時間	学 年	2 年次 学 期 後期
概 要	在宅看護を展開するにあたっては、地域における人々のあたり前の生活事象の中にある意義や価値観に気づき、人間としての存在や生活の奥深さを理解し、自己決定や生活の再構築を支援していく姿勢が求められる。本科目では、在宅看護の特徴が理解できるよう事例を提示し、在宅療養者の価値観・人生観、自己決定、家族介護力、社会資源の活用に着目した看護展開ができるように学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護過程の特徴を理解する。 2. 在宅における療養者とその家族の生活上の課題を検討できる。 3. 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を検討できる。 4. 療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現するためのケアマネジメントの展開について検討できる。 				

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	在宅看護過程の特徴	講 義
2		
3	看護過程の展開（難病の在宅療養者の事例）	演 習
4		
5		
6		
7		
8	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	ナーシング・グラフィカ「地域療養を支えるケア 在宅看護論①」 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ「在宅療養を支えるケア 在宅看護論②」 メディカ出版
参考書	[強みと弱みからみた 在宅看護過程＋総合的機能関連図] 医学書院 [関連図で理解する在宅看護過程] メヂカルフレンド社 「看護実践のための根拠が分かる在宅看護技術」 メヂカルフレンド社
備 考	

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>	
科目名	医療安全			担当講師	山元 照美	
分野	統合	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験	
単位数	1 単位	時間	30 時間	学 年	2 年次	学 期 後 期
概 要	<p>「看護の統合と実践」では、卒業後、臨床現場にスムーズに適応していけるように、各看護学で学んだ内容をベースに、臨床で実際に活用していくことを目標としている。本科目では、医療安全の必要性を理解し、臨床の場で求められる一定水準の注射技術等を安全かつ確実に提供できるよう、事故防止のための知識・技術を習得する。また、演習を通して、ハイリスク環境下での危険認識力と危険回避のための判断力を高め、臨床での卒後教育につなげていく。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療における安全管理の必要性を理解する。 2. 医療システムの中の危険要因を知り、医療事故防止のための知識・技術を 習得する。 3. ハイリスク環境下で、安全な看護を提供するための判断力・実践力を養う。 4. 実践に即した技術演習を通して、専門職としての責任感と倫理感を身につける。 					

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学 習 法
1	ヒューマンエラー・医療事故・看護事故	講義
2	業務における事故防止(1) 注射業務	講義
3	業務における事故防止(2) 輸血業務・内服与薬業務	講義
4	安全で確実な採血	講義
5	演習 採血の実施	講義・演習
6		
7		
8	安全で確実な点滴静脈内注射	講義・演習
9	ハイリスク状況下での点滴静脈内注射	講義
10	演習 ハイリスク状況下での点滴静脈内注射の作成	演習
11		
12	安全なチューブ類の管理	講義
13	演習 チューブ・ドレーンを挿入している人の援助の実際	演習
14		
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践② 「医療安全」 医学書院
参考書	「医療安全ワークブック」 医学書院
備 考	

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>	
科目名	看護の研究			担当講師	関 茂之	
分 野	統合	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験	
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	3年次	学 期 前期
概 要	看護研究の具体的なプロセスを学び、研究における基本的な知識・方法・態度を習得する。また、看護を系統的・学術的に探究すること、及び看護師として主体的に学ぶ姿勢の必要性を理解する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の基本について理解する。 2. 看護研究における文献検索、論文作成方法を理解する。 3. 看護実践での問題を意識し、問題解決のためプロセスが理解できる。 					

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学 習 方 法
1	看護研究の意義	講 義
2	看護研究における倫理	講 義
3	リサーチクエスト	講 義
4	看護研究方法論：質的研究①	講 義
5	看護研究方法論：質的研究②	講義・演習
6	統計学	講 義
7	看護研究方法論：量的研究①	講 義
8	看護研究方法論：量的研究②	講義・演習
9	文献検索	講義・演習
10	文献のクリティーク	演習
11	研究計画書の作成、倫理審査申請書の作成	講 義
12	研究論文と作成の基本ルール	講 義
13	研究計画書の作成	演習
14	研究計画書の作成	演習
15	まとめ、終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	レポート評価、客観試験
教科書	系統看護学講座 別巻「看護研究」医学書院
参考書	
備 考	

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>
科目名	災害看護・国際看護			担当講師	立川 茂樹・志賀 久美子・橋本 順子
分野	統合	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	3 年次 学 期 前期
概 要	<p>本科目では、準備期、災害直後、回復期にかけて支援できる看護の基礎的知識について理解する。 また、国際社会において広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力を考えることができる内容を学ぶ。</p>				
到達目標	<p>1. 災害医療・災害看護に関する基礎的知識・技術を習得する。 2. 災害時の応急処置の方法を理解する。 3. 国際社会での諸外国との協力について考察する。</p>				

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学 習 方 法
1	災害看護の基礎知識（1）災害看護の変遷・災害医療基礎知識	講 義
2	災害看護の基礎知識（2）感染制御・トリアージ	講 義
3	災害時要援護者への理解とネットワーク	講 義
4	災害時における看護の役割と活動内容（1）初動期	講 義
5	災害時における看護の役割と活動内容（2）災害時のトリアージ	講義・演習
6	災害時における看護の役割と活動内容（3）応急処置・搬送技術①	講義・演習
7	災害時における看護の役割と活動内容（4）応急処置・搬送技術②避難所	講義・演習
8	災害時における看護の役割と活動内容（5）急性期	講義・演習
9	災害時における看護の役割と活動内容（6）亜急性期・復旧復興期	講義・演習
10	被災者の心理・援助者の心理への理解と援助	講義・演習
11	国際看護学（1）国際看護学とは	講 義
12	国際看護学（2）多様な文化と看護	講 義
13	国際看護学（3）国際協力活動と看護	講 義
14	国際看護学（4）海外における災害看護の課題	講 義
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 看護の統合と実践③「災害看護学・国際看護学」 医学書院
参考書	系統看護学講座 「看護学概論」 医学書院
備 考	

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>		
科目名	看護管理と臨床看護の実践			担当講師	山元 照美・澁川 悦子		
分野	統合	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	3 年次	学 期	前期
概 要	<p>「看護の統合と実践」では、卒業後、臨床現場にスムーズに適応していけるように、各看護学で学んだ内容をベースに、臨床で実際に活用できることを目標としている。そのため本科目では、組織における看護師の役割を理解するとともに、チーム医療及び他職種との協働の中での看護のマネジメントを学ぶ。さらに、看護実践能力の強化を図るため、臨床の場に則した多重業務や流動的環境を設定した演習を行い、看護を実践する上でのマネジメント能力を養う。</p>						
到達目標	<p>1. 看護管理についての基礎的知識を習得し、組織の中での看護師の役割を理解する。 2. 他職種との協働の中での看護のマネジメントについて理解する。 3. 臨床の場に近い状況を設定し、複数の患者への看護のロールプレイを行い、優先すべき援助の判断やその対応を考える。 4. 実践に即したロールプレイを通して、専門職としての責任感と倫理感を身につける。</p>						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						学 習 法
1	看護とマネジメント						講 義
2	ケアのマネジメント (1) ケアのマネジメント・安全管理						講 義
3	ケアのマネジメント (2) 看護職の協働・他職種との協働						講 義
4	看護サービスのマネジメント (1) 看護サービス・組織目標達成のためのマネジメント						講 義
5	看護サービスのマネジメント (2) 協働・情報・技術のマネジメント						講義・演習
6	臨床看護実践の特徴						講義・演習
7	臨床看護実践の特徴						
8	複数患者の援助計画の立案(1)						演 習
9	複数患者の援助計画の立案(2)						演 習
10	複数患者の看護実践（ロールプレイ）						演 習
11							
12	看護実践の振り返り・再ロールプレイ						講義・演習
13							
14							
15	まとめ、終講試験/解答・解説						講 義
評価方法	客観試験						
教科書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践① 「看護管理」 医学書院						
参考書							
備 考							

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		<input checked="" type="checkbox"/>	
科目名	在宅看護論実習			担当講師	学科専任教員・実習指導教員・ 臨地実習指導者		
分野	統合	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	90 時間	学 年	3 年次	学 期	前期または後期
概 要	保健・医療・福祉における地域活動の実際を通して、地域で生活し在宅で療養する対象とその家族への看護を実施できる基礎的知識・技術・態度を養う						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活しながら療養する人々とその家族の健康状態、生活状態が述べられる 2. 地域住民の健康を支援する地域包括ケアシステムが述べられる 3. 地域における在宅看護の位置づけと看護職の役割が述べられる 4. 在宅の療養生活で対象がその人らしい生活を送るための援助が実施できる 5. 在宅療養を支援する多職種・多機関との連携・協働と社会資源の活用が説明できる 6. 地域で生活する人々、在宅で療養する対象とその家族に尊重した態度が表現できる 						
時間	授 業 計 画 ・ 内 容						
90	84時間（7時間×12日）の臨地実習と、6時間の学内実習で構成される。 在宅で療養する対象の看護について学ぶ。						
評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。						
教科書							
参考書							
備 考							

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		<input checked="" type="checkbox"/>	
科目名	統合実習			担当講師	学科専任教員・実習指導教員・ 臨地実習指導者		
分野	統合	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	90 時間	学 年	3 年次	学 期	後期
概 要	1. 看護のマネジメントを実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を養う 2. 医療チームの一員としてリーダーシップ・フォロワーシップを実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を養う						
到達目標	1) 組織における病棟管理・看護管理の実際が述べられる 2) リーダーシップ・フォロワーシップが実施できる 3) 時間管理・優先度を考慮した看護が実施できる 4) 多重課題の中で医療安全を意識した看護が実施できる 5) 医療チームの一員としての責任感・倫理観が表現できる 6) 学習者としての態度が表現できる						
時間	授 業 計 画 ・ 内 容						
90	84時間（7時間×12日）の臨地実習と、6時間の学内実習で構成される。 看護マネジメントとチーム医療における看護について学ぶ。						
評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。						
教科書							
参考書							
備 考							